

---

# 短編集という名の『挫折した小説』たち

宮原葉月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

短編集という名の『挫折した小説』たち

### 【Nコード】

N2211P

### 【作者名】

宮原葉月

### 【あらすじ】

挫折した小説を載せてますが、ひよんな事から『小説』の『シリーズ』として復活の可能性大！！  
嘘かもしれません。

## 暗闇

闇の中の一筋の光に誘いざなわれて、その光は”闇”の誘惑だと…知りながらも。

僕は光を求めて、ただ歩いた……

だんだんと光に近づいていき、最後には光に飲み込まれる。  
光の中は”闇”……そして『嘲笑い』や「闇に身を委ねろ」と言うささやきが聞こえてくる。

それを聞きながら、だんだんと意識が遠くなって……

そして、僕は”闇”になった。

以下、小説化内容。（執筆中）

俺の名は、光輝。突然だが、俺は真つ暗な空間に居る。

人間なら分かるはずだ闇は

暗闇に一人自分だけで無音

怖いと。

## タイトル未定 プロローグのみ

オレは、迫るライトから逃げていた。でも……もう、ここまでか。周りには、拳銃、スナイパーライフルS Rを構えた人。空には、武器を装備したヘリコプターまでもがいます。

あはは、なぜ何もしていないのにこんな事になっているんだろう。  
世間 マスコミでは、既にオレは重犯罪者扱い。  
じゅんはんざいしや

もしかして、誰かに嵌められた？ ああ、なぜ今頃になって気づいたんだろうか。すぐに気づけばこうなっていなかったかもしれないのに。

一斉に銃声が辺りに響いた。撃たれた。そう認識したと同時にオレの意識がプツンと糸のように切れた。

オレはそこで起きた。あれ、撃たれて死んだんじゃ？

「起きたか、少年」俺は声を聞いて、逃げる体制を取った。

「誰ですか？」人間では無いな。

「そうじゃ。少年よ」「じゃあ、なんだ……」。

「何ですか？」

「先に謝らせてくれ。すまなかった。私が失敗さえ起こさなかったら君は……」

こんな、感じネット小説で読んだ事あるぞ。しかもテンプレ 転  
生して主人公が最強と。

「すみません。その事について詳しく話してもらえないでしょうか？」

「くしゃみをして、間違つてボタンを押してしまった……」とすま  
なさそうにいう おそらく 神。

ボタンって何？

「死を管理するためのボタンだ。それを押ししてしまったのじゃ」

タイトル未定 プロローグのみ（後書き）

続きが書けないので…挫折。

インスピレーションが降りてこないだろうか？

俺と彼女と哲学！（前書き）

こういったジャンルは僕には無理でした。

## 俺と彼女と哲学！

俺、こと沢村<sup>さわむら</sup> 俊は昨日<sup>しゅん</sup>、やっと彼女が出来た。生きてきて15年「彼女無し」のレッテルは昨日、剥がれおちたっ！

「俊。喜んでいるのは良いけど、課題研究はどうしたの？ 夏休みもあと少しでしょう？」

そう、夏休みの残りが2週間なのだ。それまでに終わらせなければ先生との時間を過ごさなければならぬ！

だが、俺は彼女と”二人で”やる事になった。大事な事なのでもう一回、”二人で”やる事になりました。

朝食と身支度<sup>みじたく</sup>を済ませた俺は、彼女と待ちあわせの場所へと向かった。

待ち合わせ場所に行くと既に俺の彼女が待っていた。まだ時間じゃないのに。

「おう、早いじゃんか。まだ時間じゃねえぞ？」俺の言葉に届いたのか”彼女”は振り向いて笑顔で俺に走りよる。



僕の発電機づくりっ！(前書き)

妄想を發展できなかった。

ネタとして使いたい方はどうぞ。

僕の発電機づくりっ！

皆さんは、5日以上停電が続いたことを経験した事はないだろう。

ちなみに僕はある。

あっ、僕の名前は神無月<sup>かんなづき</sup> 仁美<sup>ひとみ</sup>。名前が女っぽいのは気にしないで  
いただきたい。

これから書くことは僕が発電機を作って稼働させるまでをえがいた  
日記だ。

道のりが長かった。

まずは水路、水車、実証機の作成。

実証機で発電出来ることを実証した後に、メイン発電モータ「15  
kW」とメイン発電モータが壊れたとき用のサブ発電モータ「11  
kW」。

制御盤の導入。

俺と彼女と哲学！ v e r i . 0 1 (前書き)

加筆しました！

俺と彼女と哲学！ ver.1.01

俺、こと沢村<sup>さわむら</sup> 俊は昨日<sup>しゅん</sup>、やっと彼女が出来た。生きてきて15年「彼女無しのレッテルは昨日、剥がれおちたっ！

「俊。喜んでいるのは良いけど、課題研究はどうしたの？ 夏休みもあと少しでしょう？」

そう、夏休みの残りが2週間なのだ。それまでに終わらせなければ先生との時間を過ごさなければならぬ！

だが、俺は彼女と”二人で”やる事になった。大事な事なのでもう一回、”二人で”やる事になりました。

朝食と身支度<sup>みじたく</sup>を済ませた俺は、彼女と待ちあわせの場所へと向かった。

待ち合わせ場所に行くと既に俺の彼女が待っていた。まだ時間じゃないのに。

「おう、早いじゃんか。まだ時間じゃねえぞ？」俺の言葉に届いたのか”彼女”は振り向いて笑顔で俺に走りよる。

「そんな事を言うなら、俊だって」と彼女は頬を染めながらニコッと微笑んだ。

オレは、迫るライトから逃げていた。でも……もう、ここまでか。周りには、拳銃、スナイパーライフルを構えた人。空には、武器を装備したヘリコプターまでもがいます。

あはは、なぜ何もしていないのにこんな事になっているんだろう。  
世間マスコミでは、既にオレは重犯じゅんはんざいしや罪者扱い。

もしかして、誰かに嵌められた？ ああ、なぜ今頃になって気づいたんだろうか。すぐに気づけばこうなっていなかったかもしれないのに。

一斉に銃声が辺りに響いた。撃たれた。そう認識したと同時にオレの意識がプツンと糸のように切れた。

オレはそこで起きた。あれ、撃たれて死んだんじゃ？

「起きたか、少年」俺は声を聞いて、逃げる体制を取った。

「誰ですか？」人間では無いな。

「そうじゃ。少年よ」「じゃあ、なんだ……」。

「何ですか？」

「先に謝らせてくれ。すまなかった。私が失敗さえ起こさなかったら君は……」

こんな、感じネット小説で読んだ事あるぞ。しかもテンプレ 転生して主人公が最強と。

「すみません。その事について詳しく話してもらえないでしょうか？」

「くしゃみをして、間違つてボタンを押してしまった……」とすまなさそうにいう おそらく 神。

ポタンって何？

「死を管理するためのポタンだ。それを押ししてしまったのじゃ  
じゃ、つまりあれか？俺はまだあそこで”死ぬはず”じゃなかつ  
た。」

「ふっざけんな！」俺はじじいを殴ろうとして拳を振るった。

闇の中の一筋の光に誘われて、その光は”闇”の誘惑だと…知りながらも。

僕は光を求めて、ただ歩いた……

だんだんと光に近づいていき、最後には光に飲み込まれる。光の中は”闇”……そして『嘲笑い』や「闇に身を委ねろ」と言うささやきが聞こえてくる。

それを聞きながら、だんだんと意識が遠くなって……

そして、僕は”闇”になった。

以下、小説化内容。（執筆中）

俺の名は、光輝だ。突然だが、俺は真つ暗な空間に居る。

人間なら分かるはずだ闇は      暗闇に一人<sup>自分</sup>だけで無音      怖いと。

自分自身にも”闇”がある。

## お知らせ

「短編集という名の『挫折した小説』たち」をこれをもって完結とします。

### 字数稼ぎ

皆さんは、5日以上停電が続いたことを経験した事はないだろう。

ちなみに僕はある。

あつ、僕の名前は神無月<sup>かんなづき</sup>仁美<sup>ひとみ</sup>。名前が女っぽいのは気にしないでいただきたい。

これから書くことは僕が発電機を作って稼働させるまでをえがいた日記だ。

道のりが長かった。

まずは水路、水車、実証機の作成。

実証機で発電出来ることを実証した後に、メイン発電モータ「15kW」とメイン発電モータが壊れたとき用のサブ発電モータ「11kW」。

制御盤の導入。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2211p/>

---

短編集という名の『挫折した小説』たち

2011年10月6日22時27分発行